# 奇跡のひと
## マリーとマルグリット

# 映画の未来を変える映画！
# 映画で広げる“バリアフリーの輪”！
# 手話解説付き試写会大盛況

いつもお世話になっております。日本で最も有名な偉人「ヘレン・ケラー」。幼い時の病が原因で聴覚や視覚を失い、三重苦に陥るもサリヴァン先生との出会いで世界を知り、歴史に名を残したヘレン・ケラーと奇しくも同時代に生きた一人の少女がいました。その名はマリー・ウルタン（1885 年～1921 年）。フランスのロワール地方の片田舎の貧しい家庭に生まれつき目も見えず、耳も聞こえないという三重苦で生まれたマリー。獰猛な野生児のように育ったマリーでしたが、一人の修道女との出会いで彼女の人生は大きく変わっていきます。本作の主演女優もまた聴覚にハンディキャップをもつ20歳の新星です！　この度は、マリーと彼女の教育に余命を捧げたシスターマルグリットの日本では誰も知らない真実の軌跡『奇跡のひと　マリーとマルグリット』の公開を機に、ハンディキャップを抱えた方々への理解を深めるべく、映画の未来を変える活動を積極的に行います！　この度は第一弾として手話解説付き上映会を開催いたしましたので、ぜひとも報道をお願いいたします。

3月30日（月）キリスト教系出版社「いのちのことば社」にて『奇跡のひと　マリーとマルグリット』の手話解説付きの試写会を開催しました。手話解説を担当したのは、「ニュース・ステーション」で紹介された両腕なき愛のゴスペルシンガー、スウェーデンの歌姫レーナ・マリアの国内ツアーや、音楽と映像で描くイエスキリストの生涯「ジーザス・ストリー」の手話通訳を担当し、会話部分以外の情景の手話表現が見事と絶賛を受けた小早川幸枝さん。健常者の方からも、きれいな手話が舞台の演出のようだとの声が上がるベテラン手話通訳者です。

会場には聴覚にハンディキャップをもつ聾者の方々が多数来場し、映画を堪能しました。字幕がある洋画はセリフを読むことはできますが、音を聞くことができない方々にとって手話解説があることによって、鳥のさえずり、風の音、流れる音楽など、字幕では説明できない台本のト書きで説明される部分が深く理解できるようになります。鑑賞した聾唖関係の方々からは、「字幕だけでは判らない微妙な音響効果を手話で説明してもらえるので、手話通訳があって、とても判りやすかった」という声が上がり、試写会は大成功を収めました。『奇跡のひと　マリーとマルグリット』では、いま全国にその輪が広がっているバリアフリー上映版も制作し、視覚障がいの方に向けて吹替え版の制作と音声ガイダンスの制作を行う予定がありますが、配給会社では、現在そのバリアフリー版に手話通訳を付けることも検討中。「数少ない洋画のバリアフリー版に加えて手話通訳付きの上映が実施されれば日本初の試みになるはず。この映画で映画の未来を変えたい！」と熱意を込めて語っている。

**『奇跡のひと　マリーとマルグリット』**

監督：ジャン＝ピエール・アメリス　脚本：ジャン＝ピエール・アメリス、フィリップ・ブラスバン　　2014 年/フランス/カラー/94分/ビスタ
出演：イザベル・カレ（『きつねと私の12か月』、『クリクリのいた夏』）、アリアーナ・リヴォアール（奇跡の新人女優）
推薦：カトリック中央協議会広報　年少者映画審議会　協力：ライフ・クリエイション（いのちのことば社）　　www.kiseki-movie.jp
提供：ドマ、スターサンズ、ハピネット　　配給：スターサンズ、ドマ

**６月上旬シネスイッチ銀座ほか全国ロードショー**

# 奇跡のひと
## マリーとマルグリット

# 洋画として初！バリアフリー版の制作費を
# クラウドファンディングで一般公募！

　平素は大変お世話になっております。
この度、配給会社スターサンズでは、映画『奇跡のひと　マリーとマルグリット』の 6 月公開に向けて、バリアフリー上映の活動の輪を広げるために、洋画としては初めての、クラウドファンディングでバリアフリー版の制作費を一般公募するという試みを行うこととなりましたので、お知らせいたします。
　現在、映画館では、邦画洋画に関わらず、聴覚や視覚に障がいのある方が映画を十分に楽しめていないのが現状です。バリアフリーと聞くと、スロープやエレベーターを想像される方もいらっしゃるかと思いますが、たとえば階段を上り下りできる人でもスロープやエレベーターを快適に利用することがあるように、映像のバリアフリーも、決して障がい者対応だけのものではありません。映像の味わいを深め、映像にアクセスする楽しみが増えるバリアフリー化は、映像・映画の未来のカタチだと考えられ始められています。そんな活動の中で、バリアフリー字幕、手話映像、音声ガイド、外国語字幕…選べるメニューを増やせば、映像にアクセスできる人が増え、いろんな状況の人が一緒に映像を楽しみ、感動を共有することができることに気がつき、いま映画業界が様々な取り組みを始めております。日本映画のバリアフリー映画上映の取り組みとしては、シネコンで上映のレギュラー化に向けての流れや、文化庁による助成制度も進められ、その輪は各所に広がっていますが、洋画のバリアフリー上映についてはまだ邦画に比べて遅れている状況です。
　今回のファンドによって本プロジェクトが成立した場合には、興行期間中にメイン上映館であるシネスイッチ銀座にて視覚障がい者のお客様もご鑑賞いただける、音声ガイド付きで日本語吹き替え版を上映するバリアフリー上映を実施する他、全国の上映館や公共施設での上映などに繋げていければと考えています。

**◆映画『奇跡のひとマリーとマルグリット』　～全国の皆さんからの協力でバリアフリー素材を作って、たくさんの人に映画を楽しんでもらいたい！プロジェクト～**

クラウドファンディングとは、自らのアイデアをネット上でプレゼンテーションすることで、そのアイデアへの賛同者を集められる仕組みです。
下記サイトにて、本作の音声ガイダンス版制作費 60 万円が一般公募で集められます。
◆公募サイト：Kibidango（*www.kibi-dango.jp* ）
◆募集期間：2015 年 4 月 20 日～5 月中旬まで
◆上映予定：シネスイッチ銀座ほか一部映画館及び非劇場（図書館などの公共施設）

**◆バリアフリー映画について**

映画を鑑賞する上で様々な困難をかかえた人たちと、共に映画を楽しむことができるよう環境を整える映画のことです。映画鑑賞が困難とされる目の不自由な方々も、セリフの合間に場面の視覚的情報を補う音声ガイドナレーション（副音声）を聴く環境を整えれば、映像を想像しながら楽しむことができます。また、耳の不自由な方々も、日本映画にも字幕をつける、手話をつけるなどの環境を整えれば、日本映画を楽しむことができます。このような音声ガイドや字幕は、学習障がいの方や、見えにくい、聞こえにくいお年寄りにも映画鑑賞をサポートするツールにもなり、特に視聴覚に障がいのない一般の方々にとっても、映画を「よりわかりやすく」鑑賞するためのツールとなります。

**◆バリアフリー映画や上映に関する参考サイト**

http://palabra-i.co.jp/　バリアフリー版のレギュラー化に向けて活動をしている会社。パラブラ株式会社が、バリアフリー版の制作を担当します。

配給お問い合わせ：スターサンズ（TEL03－3406－2205）、ドマ

# 奇跡のひと
## マリーとマルグリット

# いま広がるバリアフリー上映の輪！

映画館には車椅子用の鑑賞スペースが作られていることは広く知られていますが、現在はバリアフリー上映の機会も増え、様々な作品で行われています。例えば住友商事では 2004 年から映画のバリアフリー化に取り組んでおり、視覚や聴覚に障がいのある方にも話題の映画を鑑賞していただけるよう、映画公開に合わせて、視覚障がい者向けの「音声ガイド」や聴覚障がい者向けの「日本語字幕」を付けた作品を制作し、全国各地の上映館にご協力いただき、バリアフリー版作品を鑑賞できる機会を提供しています。2014 年からは、視聴覚障がい者への情報保障の大切さを多くの方々に知っていただくために、図書館やボランティア団体が主催するバリアフリー上映会への支援も始まっています。

日本映画の取り組みとしては、シネコンで上映のレギュラー化や文化庁による助成制度も進められ、その輪は各所に広がっていますが、洋画のバリアフリー上映についてはまだ邦画に比べ遅れている状況です。そこで、今回**6月公開の『奇跡のひと　マリーとマルグリット』では、バリアフリー上映の活動の輪を広げるために、クラウドファンディングで制作費を一般公募するという初の試みを行います！**

この輪をさらに広げるぜひともバリアフリー上映についてのご紹介をお願いいたします。

**◎バリアフリー映画とは**

映画を鑑賞する上で様々な困難をかかえた人たちと、共に映画を楽しむことができるよう環境を整える映画のことです。映画鑑賞が困難とされる目の不自由な方々も、セリフの合間に場面の視覚的情報を補う音声ガイドナレーション（副音声）を聴く環境を整えれば、映像を想像しながら楽しむことができます。また、耳の不自由な方々も、日本映画に字幕をつける、手話をつけるなどの環境を整えれば、日本映画を楽しむことができます。このような音声ガイドや字幕は、学習障がいの方や、見えにくい、聞こえにくいお年寄りにも映画鑑賞をサポートするツールにもなり、特に視聴覚に障がいのない一般の方々にとっても、映画を「よりわかりやすく」鑑賞するためのツールとなります。

**◎バリアフリー映画の上映を行った映画館シネスイッチ銀座の談話　～支配人　吉澤周子さん～**

2000 年に「太陽は、ぼくの瞳」というイラン映画でバリアフリー試写会を行った際に、視覚障害者のお客様より「稲穂のなびくシーンが美しかったです」との言葉に感動し、目の見えない方にも映画を楽しんでいただける事を知りました。しかし「普段も邦画はよく映画館に観に行きますが、外国語が分からないので洋画には行けないのです」とのこと。どうにか洋画も観ていただきたいと望んでおりました。その後、「人生、ここにあり！」「世界の果ての通学路」「ふみこの海」「時をかける少女」などバリアフリー上映を行ってきましたが、昨年上映した「世界の果ての通学路」では、視覚障害者の方だけでなく、字幕の読めないお子様や、高齢者の方が音声ガイドを多く利用して頂きました。これも一つのバリアフリーだと実感いたしました。今度も老若男女障害を越えたバリアフリー上映をし続けていけたらと思っております。

**◎バリアフリー上映を行った主な邦画作品**

『母べえ』、『武士の一分』、『隠し剣　鬼の爪』、『博士の愛した数式』、『グーグーだって猫である』、『明日への遺言』、『西の魔女が死んだ』、『ディア・ドクター』、『剣岳　点の記』、『武士の家計簿』、『ノルウェイの森』、『大奥』、『バンクーバーの朝日』など多数

**◎バリアフリー映画や上映に関する参考サイト**

http://abc-net.org/　バリアフリー映画会　　http://www.jackandbetty.net/barrier_free.html　ジャック＆ベティ